

1 研究主題

- ◎ 社会的事象を多面的にとらえ、社会的な見方・考え方を深める子どもの育成
～資料からどのようにして、何を読み取らせるか～

2 活動の概要

- (1) 社会科部会 4月21日(水) 会場；弥彦小学校
・正副部長の選出 ・研究主題の決定 ・活動計画立案

- (2) 地域巡検 6月1日(水) 会場；大河津分水資料館
・大河津分水に可動堰が完成し、現在の形になったのが、昭和6年(1931年)である。それから、今年がちょうど80周年となる。そして、今年の11月には、新しい可動堰が完成し、通水式が行われた。新潟県の発展に大きく貢献してきた大河津分水は、地域の宝として、燕市の子どもたちに、実際に見学して学んでほしい社会科教材である。社会科部員は、国土交通省の職員から丁寧な説明を受けながらじっくりと見学し、教材研究を行うことができた。

- (3) 授業研究会 11月30日(水) 会場；吉田小学校

- ・授業者 吉田小学校 6年2組担任 高詰淳一教諭
- ・小単元名 「2つの戦争と日本・アジア」
- ・授業の概要

日露戦争後に描かれた3枚の風刺画から、当時の国際情勢と日本の国内の状況について考えさせた。①日本の国際的地位が向上したこと ②アメリカなどは日本の中国大陸進出を警戒したこと ③増税等で国民の生活は苦しくなったこと。授業の最後に、振り返りとして、「日露戦争」「国際的地位」「増税」の三つのキーワードを使ってノートにまとめさせた。

- ・ 授業後の協議会は次のテーマで協議を深めた。

- ① 風刺画が社会的な思考力を高めるのに有効だったか
- ② 社会科における言語活動について
- ③ 板書による視覚化、構造化の効果



(報告者；燕市立吉田南小学校 若井春雄)